

自由民主党嚆矢会

行政視察報告書

○ 平成 30 年 10 月 9 日
～10 日

○ 愛知県一宮市・
ボートレース戸田

視察先・項目 愛知県一宮市 中央子育て支援センター

一宮市は、愛知県の北西部にあり、名古屋市迄 17km 岐阜市迄から 13km と JR で 10 分と 7 分の位置にあり東西 15.3km、南北 13.3km、面積 113.82 ㎢と木曾川沿いのきわめて平坦な濃尾平野の中央に位置して、古くから農業の盛んにおこなわれていた、江戸時代の中頃から綿花の栽培が盛んになり農家の副業として綿織物の生産が行われるようになり、その技術を活かし毛織物生産地として発展し、産業構造の多様化進んだ現在、繊維産業を中心とした複合型産業都市へと変貌している。また名古屋まで JR で 10 分という距離なので、名古屋のベッドタウンとしても発展している。中部経済圏における交通拠点で、名神高速道路や東海北陸道の起点でもある。平成 14 年には特例市に移行したが、厳しい財政状況や少子高齢化の進展、生活圏の広域化、地方分権の推進等の課題に直面し平成 17 年 4 月 1 日尾西市・木曾川町と対等合併し、人口 37 万人の新生一宮市が誕生し、現在は 385,777 人と増加している

中央子育て支援センターは JR 尾張一宮駅に隣接した駅ビルで平成 24 年に竣工し中央図書館・ビジネス支援センター・市民活動センターなど市民生活と企業活動を支援する複合施設の中の一つに組み込まれた、主に就学前の子供を対象とした施設で子どもと遊んだり、保護者同市が交流したりして、楽しく過ごせる場として市内 6 カ所の中の一つである。今回視察したこの施設は一宮市の中心市街地の駅ビルにあるという立地条件が特筆すべきであり、周南市の駅ビルにこの機能を持たせれば、民間活力導入図書館に対する周南市民の批判的な意見を少しは改善されるのではと考える

視察先・項目 埼玉県戸田市 ボートレース戸田

ボートレース戸田

初開催は昭和 29 年 11 月 3 日、現在の施行者は戸田市・蕨市・川口市の（3 市）で構成する「戸田競艇事業団」（昭和 29 年 6 月 17 日設立）と

飯能市・東松山市・狭山市・羽生市・鴻巣市（こうのすし）上尾市・草加市・越谷市・

入間市・朝霞市・さいたま市・春日部市・深谷市・本庄市・加須市（かぞし）の（15

市）で構成する「埼玉県都市競艇組合」（昭和 32 年 11 月 1 日設立）の 2 つの施行者

が半分づつで開催している。戸田の大きな特徴は昭和 39 年の東京五輪のボート競技

のメイン会場と競走水面が繋がっていて、幅がかなり狭いので 1・2 号艇の 1 着確率

が他のレース場と比較して低いことで、ボートファンとしては面白いレース場であ

る。全体の売上は 29 年度が約 510 億円で本場売上 140 億円、電話売上 171 億円、

場外売上 36 億円、場間場外売上 162 億円で、本場売り上げが他の 23 場と比べ断ト

ツで多い競艇は何処も電話売り上げが一番多いが、本場が賑わうことは地域の交流

人口増につながり、地方自治体の財政上の繰り入れだけでなく、地域の活性化にも寄

与できるのではないかと、また選手の士気にも良い影響が出てレースが盛り上がり

増々ファン増につながるのではないかと、さらに戸田は外向け場外施設が、

本場・岡部（深谷市）・栗橋（久喜市）・双葉（山梨県甲斐市）・阿賀野（新潟県阿賀

野市）・新潟（新潟市）・旭川（旭川市）と 7 施設あり戸田の本気度が見える。

会派視察報告 平成30年10月9日 愛知県 一宮市

中央子育て支援センターについて 尾崎隆則

人口＝38万5,700人 面積＝113,82km

木曽川沿いの平坦な濃尾平野の中央に位置し、古くから綿花の栽培が盛んで、繊維産業を中心とした複合型産業都市となっている。

中央子育て支援センターは、JR尾張～一宮駅に隣接した駅ビルの中へ、平成24年に竣工。中央図書館や、ビジネス支援センター・市民活動センターなど、市民生活と企業活動を支援する複合施設の中の一つに組み込まれた、就学前の子どもを対象とした施設で、子どもと遊んだり、親同志が交流したりして、楽しく過ごせる場として活用されている。

「駅ビル内にこのような施設を」と考えていた会派としては、とてもうらやましい施設であった。

視察報告 平成30年10月10日 尾崎隆則

ボートレース戸田の状況について

交通案内無料バス運行 J R 埼京線戸田公園駅
東武東上線成増駅北口
J R 京浜東北線川口駅西口
都営三田線高島平駅

戸田ボートレース場

水質＝淡水で流れ・水位変化はなし。

コース幅が狭く、1マークをスタンド寄り。2マークを対岸よりに大きく振っている。

カドまくりが決まりやすく、ダッシュ3艇の出番が多いため、1コースの1着率が低い。

初開催は昭和29年11月3日 文化の日

昭和39年 東京オリンピックでボート競技のメイン会場と競走水面が繋がっていて、幅が狭いのでインコースからの1着が他のレース場と比較し、きわめて低い。本場での売上げが他場と比べ断トツで多いのが戸田の特徴である。

7/30年10月9日

一宮市 中央子育て支援センター

古谷 幸男

一宮市は名古屋までJRで10分あまりの距離であり名古屋のベッドタウンとして人口増加している。H14年に特別市となったが

- 厳しい財政、少子高齢化、生活圏の広域化
- 以上の平成の大合併でH17年4月1日に尾西市、木曽川町と対等合併、人口約37万人の一宮市が誕生、人口は385,777人と増加している。

- その中で子育て支援策として中央子育て支援センターがJR尾張一宮駅に隣接した駅ビルにH24年に設置された。中央図書館、こじんろ支援センター、市民活動センターと複合施設の中にあり主に
- 就学前の子供を対象とした施設である。

一宮市の中心市街地の駅ビルに設置されたことは特筆すべきで、子供と遊べる集い、保護者 ~~同僚~~ が交流し楽しく過ごせる場所として市内6行政区の一つである。

岡崎市にもこうした子供の施設や子育て支援施設が駅ビルにあると思う。
残念でない。

H30、10月10日

戸田市ボートレース戸田

古谷章男

ボートレース戸田には縁が深く議長時代を営めると
5度目になる。大きな施設改善はないか

施行者 3市構成の戸田競艇事業団(529. 6. 17設)
と15市で構成する埼玉県都市競艇組合(530. 11. 1設)

○の2つの施行者で半分ずつ開催している

大きな特徴は、59年の末、五中輪のボート競技
のXIN会場と競走水面が重なっており中が
かなり狭い。従って、1、2号艇の1着確率から他の
場と比較して低いことで、ファーンとしては楽しめ
ない増すレース場ともいえる。

本場売と他の23場と比べて群を抜いている。

○ボートレースの根幹である一般令計への繰入れ
地域の交流人口、活性化にも貢献している
といえるであろう。

本場への入場者増がもたせるさまざまな
役割はうらやましい状況といえる。